

父母連ニュース

草加市保育園父母会連合会 機関紙

2009年度 第8号/2010年2月13日発行

発行責任者：高山 943-2616・浜園 925-4377

表面：「市長懇談会回答書・草加市における0歳児保育施設整備方針」について
裏面：「市長懇談会回答書・草加市における0歳児保育施設整備方針」について（続き）
新さかえ保育園・草加子育て支援センター内覧会参加報告



「市長懇談会回答書・ 草加市における0歳児保育施設整備方針」について

1月中旬に保育課から市長懇談会についての回答書と草加市における0歳児保育施設整備方針が届きました。いずれも内容量が多いため、ここでは概要を箇条書きにしてピックアップしてみました。

○ 市長懇談会回答書については、以下の10点が特徴的な内容です。

- ①家庭保育室と同等程度に「小規模認可保育所」も0歳児の受け皿として明記
- ②整備計画→柔軟な変更可能な「整備方針」へと変更、また詳細な整備方針を作った→「計画」として年度ごとに推し進めていくものではないことを強調
- ③家庭保育室における育成保育については「対応できる」
- ④育成保育のために「一部公立保育園に0歳児クラスを設けることを検討」
- ⑤旧あずま保育園用地売却は、新あずま保育園建て替えに際して「市民に約束したこと」とのこと
- ⑥0歳児の移行による具体的な受け入れ数増のモデルケースを明記→100人定員の保育園で5人増
- ⑦園舎の耐震診断の予定はなし、ただしやつか保育園舎は老朽化を理由に建て替えを明言
- ⑧定員弾力化については、最低基準を遵守しながら行っていく
- ⑨全園延長保育は待機児対策のために遅れている
- ⑩完全給食については従来からの回答通り、待機児対策のためにすぐに実現できない

○ また「0歳児保育施設整備方針」については、これまでの「家庭保育室整備計画（素案）」から「0歳児保育施設整備方針」へと変更しました。ただし市長が明言した通りで、草加市内での待機児が解消されない状態では公立園から0歳児保育を廃止することはないことも明記されています。概要は以下の通りです。

- ①最終整備目標年度を平成26（2014）年としている
- ②育成保育のために公立保育園の敷地内に0歳児クラスを設けることを明記
- ③計画年度内に小規模認可保育所が整備された場合には、当該保育所に設置される0歳児クラスの定員数を、当該地域に整備予定の家庭保育室の定員数から減員する（つまり小規模認可保育所が整備されれば、家庭保育室が整備された場合と同じに扱う）
- ④家庭保育室の設置基準・運営基準は概ね従来通り
注）ただし、2010年度4月入室からは市役所で申し込みを行うようです（市ホームページより）
<http://www.city.soka.saitama.jp/hp/page000017100/hpg000017019.htm>
- ⑤設置場所は核となる保育園から300m以内、保育園から100m以上離れる場合は近隣100m以内に公園や空き地等があることが条件
- ⑥新たに家庭保育室の開設を希望する者に対して、開設前に公立保育園で実習を行う
- ⑦市主催で家庭保育室保育従事者を対象とした研修会を行う
- ⑧公立園と家庭保育室合同で「健康診断」「おたのしみ会」「クリスマス会」を行う（健診は無料となる）
- ⑨公立園の園庭、プール、遊具は共同で利用する
- ⑩公立園での職員会議や研究会に家庭保育室の保育従事者が参加する
- ⑪家庭保育室の在室児や保護者が疾病・けがの場合における保育料の減額・減免の導入
- ⑫家庭保育室でのミルク代を無料とする
- ⑬4月入室児の健康診断代を無料（保育園で合同実施）
- ※⑭2ヶ所送迎支援：各園3人から6人を上限として、近隣の家庭保育室への優先的な入室を市が斡旋
- ※⑮家庭保育室を退室時（年度途中退室を除く）以降の保育園入園を確定
- ⑯年度当初定員割れの場合に家庭保育室へ補助を行う
- ※印の項目は、最終整備が完了した後に実施されるもの

私たち保護者の視点からみると、定員の弾力化や延長保育の全園実施、完全給食の実現など、回答書はなお課題が多い内容となっています。また0歳児の整備方針についても、今後草加市の0歳児保育が大きく変わろうとしていることが分かります。引き続き大きな関心をもって情報を収集していき、私たちの声を届けていくことが必要です。なお「草加市における0歳児保育施設の整備方針」につきましては、草加市ホームページにPDFで掲載されていますのでぜひ目を通してみてください。

<http://www.city.soka.saitama.jp/ct/other000015900/houshin.pdf>

新さかえ保育園・ 草加子育て支援センター内覧会参加報告

2月8日(月)9日(火)に新さかえ保育園、草加子育て支援センターの一般公開内覧会が行われました。埼玉県で初めての保育園・地域総合相談所・療育所の複合施設ということで、草加市以外の見学の方も多く来ていらっしゃいました。また、草加公立保育園の先生方の姿も見られました。以下、見学してみて感じた事をお知らせします。

* 新さかえ保育園

- ・新さかえ保育園は1階と2階半分のスペースを利用しています。平成22年度は、1・2歳児は各2クラス、0歳児と3～5歳児は各1クラスで合計150人の大規模な保育園としてスタートします。1階の0歳児クラスには、沐浴室と調乳室を完備しているため、これからも0歳児保育は継続して行ってほしいと思います。
- ・室内は木のぬくもりを感じられ、ドアなどはピンクや水色といった優しい色使いで統一されており、全体的に温かみを感じられました。特に遊戯室の天井の空の絵は必見です。
- ・また、複数ある出入り口には監視カメラが設置されており、事務室で監視できるようになっています。こういった安全面の強化は、安心して子供を預けられますね。
- ・大規模かつ複合施設となり、不安な要素もありますが、子供たちがのびのびと元気に過ごせる保育園だなと感じました。(父母連事務局：青木)

* 草加子育て支援センター (4月1日オープン)

0才から小学校低学年までの発達の気になるお子さんを対象とした、相談所および療育施設です。理学療法室、作業療法室、言語療法可能な個別教室があります。また、集団デイサービス室も3室あります。オープンして運用をしていかなければどれだけの子供達を見ていけるか、まだわからないようです。4月1日より子育て支援課のケースワーカーと相談して診察の予約がとれます。ご利用の方は早めにご相談すると良いと思います。駐車場は2台と、今のところは少ないですが、松原団地前駅からはすぐです。療育施設としてはとても狭いような気もしましたが、草加市内に出来たということは一歩前進したのではと感じ、期待したいと思いました。

(父母連事務局：浜藺)

